

令和5年度

特色ある学校づくり

— 実践報告書 —

令和6年3月

亀山市教育委員会

はじめに

今、日本の社会は、グローバル化、情報化、科学技術の発展、環境問題への関心の高まり、少子高齢社会など社会の急激な変化に伴い、高度化・複雑化する諸課題に直面しています。このような状況の中をたくましく生きていく人材を育てるには、豊かな人間性や社会性、主体的・協働的に学ぶ力と周囲の人とのコミュニケーション力など、様々な力を育むとともに、個性を生かしその能力を十分に伸ばすことが必要になってきています。一人ひとりの個性を生かす教育を行うためには、学校全体を多様な学び方ができるような創造的で柔軟なものにしていく必要があります。「特色ある学校づくり」はそのような教育を実現するためのものです。各学校が子どもたちや地域の実態等を十分踏まえ、創意工夫を生かした特色ある教育活動を開拓すれば、一人ひとりの個性を生かして、生きる力を育む教育が可能になっていくのです。

亀山市におきましては、「亀山市学校教育ビジョン」のもと、亀山の豊かな自然や歴史文化、芸術・芸能などを大切な教育資源として活用する教育を進め、各校における学校運営協議会等の組織や人的環境を活用し、地域ならではの創意や工夫、強みを活かした特色ある学校づくりを推進してまいりました。

今後も、各校が地域の教育資源を最大限に活かした独創的な教育活動を開拓し、魅力に満ちた特色ある学校づくりを行うことで、子どもたち一人ひとりの「確かな学力」の育成、「心の教育の充実」を図るとともに、より一層地域から信頼される学校づくりを目指してまいります。

結びに、本事業の取組に関しまして、多大なご支援・ご協力を賜りました保護者・地域の皆様、関係機関の方々に厚くお礼を申し上げます。

令和6年3月

亀山市教育委員会教育長 中原 博

目 次

各学校の取り組み

・「居心地！居場所！意欲！」 3愛（I）のある学校

～こどもたちの多様性を活かし、家庭・地域とともに歩む学校づくり～

亀山市立亀山西小学校

・地域の中で生き生きと学び

豊かな心をもってよりよく生きる子どもの育成

亀山市立亀山東小学校

・地域とともに歩む昼生っ子 ～地域の核となる学校をめざして～

亀山市立昼生小学校

・地域の中で、みんなで生き生きと学べ！！川崎っ子

亀山市立川崎小学校

・生きてはたらく力の育成

～地域とともに仲間とともに野登っ子パワーアップ大作戦～

亀山市立野登小学校

・でいい、ふれあい、そして 未来へ

～ 自分を発揮し、求め続ける白川っ子の育成 ～

亀山市立白川小学校

・つながろう 笑顔いっぱい やなぎっ子

亀山市立神辺小学校

-
- ・笑顔いっぱい！ 進んでチャレンジする井田川っ子の育成

亀山市立井田川小学校

- ・みどりの中で豊かに学ぶ「みなみっこ」の育成

亀山市立亀山南小学校

- ・じぶんできくなかまとふるさとから学ぶ夢豊かにしあわせに
～地域の「ひと・もの・こと」にふれ、みんなでわかる、
自ら取り組む子の育成～

亀山市立関小学校

- ・「加太を大切に思う子の育成」

～子どもたちが生き生きと活動するために～

亀山市立加太小学校

- ・地域を支え時代を担うたくましい人づくり

～地域とともに生徒が育つ学校をめざして～

亀山市立亀山中学校

- ・学校・保護者・地域が一体となり豊かな心を育む人づくり

亀山市立中部中学校

- ・幸せ関中学校計画

～子どもたちの夢を叶えるために～

亀山市立関中学校

「居心地！居場所！意欲！」 3愛（I）のある学校 ～子どもたちの多様性を活かし、 家庭・地域とともに歩む学校づくり～ 亀山市立亀山西小学校

1 特色ある学校づくり推進の概要

「確かな学力・豊かな心・健やかな体を育み、家庭・地域とともに歩む活気ある学校」をつくるために、学校運営協議会を中心とした保護者・地域との連携と協働による特色ある教育活動をすすめた。本年度は次の3点を行動計画の重点目標として設定し、取り組んだ。

（1）子どもの意欲を高める

- ・学力・体力の向上
- ・子どもたちが自ら課題を見つけ、解決する力の育成
- ・体験活動、ICT、図書館などを活用し、子ども主体の授業への授業改善

（2）居心地のよい、安心・安全な居場所づくり

- ・共生（多文化・特別支援など）教育、人権教育、命の教育の推進
- ・不登校の未然防止と不登校児童の居場所づくりと学力保障

（3）学校と家庭・地域・教育機関との連携

2 具体的な実践

（1）子どもの意欲を高める

①学力保障のための補充学習「パワーアップタイム」の実施

月曜日の6限目に、「パワーアップタイム」を実施した。多くの教師が指導に関わるように、校時と時間割を工夫した。また、習熟度に応じて指導できるよう、計画的な運用を行った。



②教材・教具の作成(家庭科、総合的な学習・生活科、外国語、家庭学習、補充学習、日本語指導、ICT活用教材等)

児童が主体的、対話的で深い学びができるよう、授業の中で実生活や実社会につながる課題を設定した授業を行った。研修会や授業研究会においても協働的で対話的な学びを育む、授業づくりと教材の研究を進めた。



③指導力向上に係る研修会やOJT(国語、家庭科、総合的な学習の時間・生活科、多文化共生、特別支援教育、生徒指導等)の実施

教職員の指導力向上、まとめ、力量の向上を図るため、大学教授及び文部科学省調査官を招聘し、研修会を実施した。多文化共生の取り組み方法【東京外国语大学 小島祥美先生】、愛着障害と発達障がいの理解と支援について【和歌山大学 米澤 好史先生】、家庭科教育について【三重大学 村田晋太郎先生、文部科学省家庭科教育教科調査官 熊谷 有紀子先生】、事例検討会と今、通常学級に求められる特別支援教育について【宇部フロンティア大学臨床教授 小栗 正幸先生】、学級づくり・仲間づくり研修【名城大学 曽山 和彦先生】

⑤しろやま集会等の発表の場を活用した子どもを主体とした活動

児童会と学校運営協議会との「亀山西小学校の未来を語り合う会」を開催



児童会が主体となって企画、運営したしろやま集会を行った。学校運営協議会役員がゲームで使う機材を作成し、学校運営協議会と児童会が一体となった画期的な活動と

なった。

児童会役員と学校運営協議会役員で話し合いを行う「亀山西小学校の未来を語り合う会」を2回開催した。今後の児童会が主体的に活動するためにどうしていけばさらに良い学校になるかについて話し合った。

(2) 居心地のよい、安心・安全な居場所づくり

日々の教育活動で子どもの自己肯定感の向上を図るために、共生（多文化、特別支援教育など）教育、命の教育、なかまづくり、充実した道徳の授業、いじめの未然防止、不登校の未然防止と居場所づくりを行った。

三重弁護士会川戸雄介弁護士による「いじめ予防授業」、社会人ラグビーチーム・三重ホンダヒートによるキャリア教育、生き方授業、いじめ撲滅を伝える出前授業を行った。有志によるNHK合唱コンクールへの参加、子どもが主体となったあいさつ運動「あいとも運動」を児童会主体で行った。

(3) 学校と家庭・地域・教育機関との連携づくり

中学生職場体験学習生徒の受入と、中学生による6年生向け中学校紹介授業の実施。保幼小連携事業に係る小学校1年生による校区内園児対象の「秋祭り」と特別支援学校に通う居住地児童交流を行った。

① 亀山市出身の落語家の四代目林家菊丸さんには話術のすばらしさと共に、夢を持って生活することの大切さ、キャリア教育についてご講演と落語講座をしていただいた。また文化庁主催文化芸術による子供育成推進事業巡回公演事業では、公益財団法人梅若研能会様による「能」を行った。ワークショップによる事前学習を行い、伝統芸能の能鑑賞と能体験を行い、“本物”的な素晴らしさに触れた。

- ・健康安全にかかる講話や体験活動
- ・保幼小中高特が連携した学びと育ちのための交流体験
- ・地域の教育資源を生かした授業の実践、
- ・しろやま集会（多文化共生、合唱、児童の自治的活動等、西小文化につながる特色ある活動の発信）での情報発信



3 成果と課題

【成果】

- ・with コロナの中、保護者、地域の方々の協力を得ながら、体験的な教育活動を多く取り入れ、成果を上げることができた。【体験活動で地域の方から教えてもらう学習の肯定的評価 95.3%（児童アンケート）】
- ・「子どもたちが楽しく通える魅力ある学校づくり」の実践がすすんだ。【「学校での生活は楽しい」肯定的評価 97.2% 「みんなで何かをするのが楽しい」肯定的評価 96.8%（児童アンケート）】

【課題】

- ・学校生活において自分の意見をいえる学級づくり、授業づくりをさらに推し進め、一人ひとりに合ったきめ細かな指導をさらにすすめる必要がある。【「学級会など学校生活に関わる話し合いで、自分の意見が言えていますか。」の肯定的評価が 77.7%（児童アンケート）と他の評価に比べて低い】

「みんなで何かをするのが楽しい」肯定的評価 96.8%（児童アンケート）

地域の中で生き生きと学び豊かな心をもって よりよく生きる子どもの育成



子どもたちが生き生きと楽しく学ぶ学校
一人ひとりの子どもに居場所がある学校
保護者地域と教職員が手を取り合って進む学校

亀山市立亀山東小学校

1. 特色ある学校づくりの概要

本校では、「地域の中で生き生きと学び 豊かな心をもってよりよく生きる子どもの育成」の実現のため、本年も3点を柱に特色ある教育活動をすすめた。

- ①主体的・協働的な学びを育む授業改善と学力定着
- ②仲間とともににつながり合い、高まり合う学級づくり
- ③保護者・地域とともににある学校づくり

2. 具体的な実践

(1) 主題的・協働的な学びを育む授業改善と学力定着の取組

児童に授業規律が身につくように、話の聴き方、発表の仕方、姿勢、声の大きさなど“学習の約束”を教職員が定期的に検討する。学びの充実にむけた取り組みとして、「朝の学習の時間(英語、国語など)の設定」「家での学習習慣をつかむ“いえ学”」「興味の幅を広げる“学びノート”」「タブレットを使い、学習したことの整理やeライブラリ等の活用」。「図書館ボランティア・図書館アドバイザーの活用」など基礎基本の定着に向け、協働的な学習を取り入れ授業の改善を図った。また、本校では、ゲストティーチャーや体験活動を通して児童の主体性や社会性の育成に取り組んだ。本物に出会う、触れることは、学んだ学習内容をより深め、新たな学習に向けた意欲を生み出した。

自主学習(まなびノート)

図書館アドバイザーの授業



協働的に学ぶ（理科）



ゲストティーチャーの授業
(新体操体験)



(2) 仲間とともににつながり合い、高まり合う学級づくりを進める取組

各学年の発達に応じて人権学習や、いじめなどの身近にある差別についての話し合い、QUの弁護士によるいじめ予防教室 6年生が1年生に教える活用し学級づくりに努めた。また、本年は、ゲストティーチャーとして弁護士を招き、5, 6年対象に「いじめ予防教室」を実施した。また、異学年同士で学習する機会も設け、関わりの中から学びを深めていく取組みをすすめた。



(3)保護者・地域とともにある学校づくりを進める取組

本校では、地域とのかかわりから学ぶ授業づくりを進めてきた。農業・商業・工業の産業や施設や団体から自然環境、防犯、災害、消防、図書館など学年に応じたテーマで学んだ。見学をすることの他、積極的にゲストティーチャーとして招くことで学習を積み上げていくことに取り組んだ。また、亀山高校や保育園・幼稚園とも学習の機会をもち、地域の“ひと・もの・こと”からの学びを充実させてきた。情報教育との連動としてタブレットを使って学習したことを整理していく手法なども取り入れている。また、今年度は本校にある陰涼寺山など校舎内外の教育環境整備に努めた。

	地域関連学習(抜粋)		地域関連学習(抜粋)
1年	ゴーヤ、ダイコン栽培(地域人材) 三園交流「秋まつり」 (第2愛児園、亀山愛児園、亀山東幼稚園) 陰涼寺山自然観察会(亀山市役所職員)	4年	亀山第2水源地見学 出前授業「ごみの処理と利用」(総合環境センター) 高校生の出前交流「郷土料理どっかんもち」 (亀山高校生)
2年	町たんけんと地域の人からの聞き取り活動 (東町商店街、本町、栄町など) 環境に優しい工作活動 (地球温暖化防止活動センター)	5年	稲刈り体験・農業機械の見学(地域人材) 出前授業「地域の安全を守る」(亀山警察) 出前授業「地域の安全を守る」(亀山消防署) 出前授業「地域の災害から守る」(津地方気象台)
3年	校区探検と地域の自慢探し活動 (旧東海道、商業施設、亀山高校より地域遠望) 施設見学(消防署、警察) 出前授業「地域の安全なくらし」(江ヶ室交番)	6年	起業体験出前授業(地域飲食店) 起業体験出前授業(商工会議所) 起業体験出前授業(三十三銀行) 東っ子まつり、亀山大市出店

2年生 秋まつり（三園交流）



5年生 稲刈り体験



6年生 東っ子まつり



陰涼寺山の整備



3. 成果と課題(学校評価アンケートより)

【成果】

◎地域の“ひと・もの・こと”を教育内容や学習方法として積極的に取り入れ、研究領域“生活科、総合的な学習”をコアとし積み上げ、楽しく分かることを一層すすめることができた。

児童：「先生は分かりやすく教えてくれる」【肯定的意見 96.1%】

保護者：「学校は地域の“人・もの・こと”を活用した学習を行い、地域への関心を高めることに努めている」【肯定的意見 95.4%】

◎学校たよりやホームページで特色ある教育活動や児童の様子を情報発信することの他、陰涼寺山などの校舎内外の教育環境整備をすすめることができた。

保護者：「学校はホームページ等を通じて、活動の様子を伝えることに努めている。」
【肯定的意見 97.7%】

【課題】

▲自分の意見や考えを伝えたり書いたりすることに積極的になれない弱さ【否定的意見 28.4%】や、テレビやゲームなどをする家庭内ルールを自分から守り切れない弱さ【否定的意見 28.8%】が見られ、家庭学習をする習慣が十分に定着していない【保護者：否定的意見 22.8%】ことにもつながっており、主体的に学ぶ力についていく必要がある。

▲地域、保護者との連携に力を入れ情報の発信、地域協力による学習など取り組んできたが、保護者からは一人ひとりに合ったきめ細かな指導と支援に弱さがあるとする評価【否定的意見 21.7%】も多く、引き続き家庭と連携して取組を進めていく必要がある。

地域とともに歩む昼生っ子 ～地域の核となる学校をめざして～

亀山市立昼生小学校

1 特色ある学校づくり推進の概要

- (1) 地域との連携を強化し、学校・家庭・地域が一体となった学校づくりを推進する。
＜地域とともに歩む学校づくり＞
- (2) 学ぶ意欲の向上に努め、学習規律、学習習慣の定着及び授業改善により、学力の向上に努める。
＜確かな学力の育成＞
- (3) 基本的生活習慣・社会的規範意識を育み、ともに高まろうとする仲間づくりを進めるとともに、子どもたち同士のつながりを深める。
＜豊かな心の育成＞

2 具体的な実践

(1) 地域とともに歩む学校づくり

＜米づくり・お礼の会12/6＞

5年生が中心となり、全校で餅米づくりに取り組んだ。地域の方々と共に作業に取り組む中で、米づくりの苦労や工夫、昼生地区の農業に対する思いにふれ、感謝の気持ちを深めることができた。米作りの集大成として、5年生の子どもたちが、お世話になった地域の方を招いてお礼の会を行った。

＜地域の先生人材バンク＞

令和3年度より「地域の先生(ゲストティーチャー)人材バンク」を昼生小学校運営協議会で作成しており、現在も随時追加、拡張している。

リストを手掛かりに、各学年が各教科・領域等の年間計画と照らし合わせて、地域で活動する方をゲストティーチャーに迎え、学習を進めてきた。また、令和4年度末に昼生小学校運営協議会が中心となって募集した複式教育学習支援ボランティアの方々に、2・3年算数の「わたり」授業の活動補助や採点などで支援をいただいた。

(2) 確かな学力の育成

＜学びあい活動の充実＞

「ともに高め合う子どもの育成～異学年での交流活動を通して～」を研究主題とし、研修に取り組んできた。複式授業や合同授業での異学年集団による学習を行うことで、少しでも多様な考えに触れる機会となった。更に、本年度より複式教育が始まり、児童が自分たちの力で学習を進めていくようにするために、学習リーダーの育成を行ってきた。児童会からの「10チャレ」や図書委員会からの「10読」など、児童の自発的な活動も推進した。



＜全校田植え＞



＜算数複式授業＞

(3) 豊かな心の育成

<あいさつ標語>

あいさつは、人と人とのつながりの大切なものであるとの認識から、全校で「あいさつ標語」に取り組んだ。全ての標語の中から、学校・地域の投票により素敵な作品を選出し、「あいさつ啓発ポスター」を作成した。ポスターは、昼生地区まちづくり協議会をはじめ、昼生地区内の公民館などへ配布し、掲示していただいた。

<友愛活動～独居高齢者宅訪問～>

昼生地区まちづくり協議会福祉部で、地域の高齢者の健康対策や高齢者の居場所づくりなどについて様々な企画・運営を行っている。福祉部の方に、ゲストティーチャーとして来校いただき、「友愛訪問の意義」についてご講演いただいた。その後、昼生地区に住む一員として、福祉部や民生児童委員、PTA 地区委員の方々と一緒に独居高齢者の方々の自宅を訪問し、家庭科の時間に作製した手作りプレゼントを言葉掛けしながら渡し、地区に住む高齢者との繋がりを築く活動を行った。



<友愛訪問説明>



<友愛訪問活動>

3 成果と今後の課題

(1) 成果

- ・学校と地域が連絡を密に取り合い、地域との交流学習を行ったことで、地域との連携を強化することができた。
- ・児童が地域に貢献することを通じて、「自分も昼生地区の一員である」という意識を高める機会となった。
- ・コロナ禍前よりも、学習や図書などのボランティア活動が活発に行われた。
- ・民生委員の活動を教えてもらい、体験的に知ることができる学習の機会となった。

(2) 今後の課題

- ・昼生地区の高齢化により、地域の力を借りた様々な教育活動を続けていくことが難しくなる可能性がある。
- ・ゲストティーチャーが固定化しており、今後も無理なく活動していただくためにも、「地域の先生人材バンク」への登録を広く呼びかけ、様々な分野でいろいろな人に関わってもらえるようにしていく必要がある。



1 特色ある学校づくり推進の概要

「ふれあいを通して人と人がつながり、学びにあふれる学校」をつくるために、「保護者・地域との連携と協働の推進」と「豊かな学び・確かな学びが実感できる、笑顔あふれる教育活動の創造」を柱に、特色ある教育活動をすすめた。

2 具体的な実践

(1) 保護者・地域との連携と協働の推進

①川崎の歴史・文化・人材を最大限に活用した地域関連学習の充実

川崎小学校区は、地域の教育資源「ひと・もの・こと」が非常に豊かな校区である。これらの教育資源を活かした地域関連学習を通して、子どもたちに地域への愛着と誇りを育んでいる。



②保護者・地域とともに創り上げる学校諸活動と地域行事等への参加、貢献

地域の人とのふれあいや地域での様々な体験等を通して、豊かな人間性・社会性を育んでいる。



NHK全国音楽コンクールへ
出場
三重大会出場 金賞
東海・北陸大会出場 優秀賞



地域、PTA、川崎駐在所に協力していただいて、防犯訓練、交通安全教室を実施

③地域共有ゾーンの有効活用

本校には、ふれあい活動室をはじめとする地域共有ゾーンが設けられており、子どもたちが地域の方々とふれあい、そして学ぶ場、また、地域の方々の活動の場として活用している。



「花壇及びフレンドリー農園整備」



「花あそび～フラワーアレンジメント～」
くろぼくふれあい活動



「鳴山市吹奏楽団」



放課後子ども教室
「文化琴」



新1年生保護者を対象とした「カバー作り教室」

④学校情報の積極的な発信と学校公開

学期1回の授業参観、フリー参観、児童会行事などを通して保護者や地域に広く学校や子どもたちの様子を知つてもらうことができた。また、学校だより、学年通信に加え、学級だよりを発行し、子どもたちの日常の様子や担任の学級経営についての思いを伝えることができた。



(2) 豊かな学び・確かな学びが実感できる、笑顔あふれる教育活動の創造

①川崎小学校十か条に基づいた生徒指導

十か条から毎月の児童会目標（生活目標）を設定し、各学級で取組を進めている。

②学びの基礎を充実し、誰もがわかる主体的で対話的な授業改善

指導教諭による提案授業や各学年に求める「対話の姿」の具体化により、めざす授業の形について共通認識をもって授業づくりに取り組むことができた。



3 成果と課題

- ・昨年度より研修のテーマを地域学習の授業づくりとし、それぞれの学習の意義を捉え直し、教科の学習との関連性を意識した生活科、総合的な学習のカリキュラムを作成、子どもたちの意欲や主体性を起点とした学習をすすめることができた。限られた授業時数の中で、子どもたちの主体的な学びを大切にしつつ、教科の学習で培われた力を地域学習の場でさらに高めることができるよう、よりカリキュラムマネジメントを進めていきたい。

地域とともにある学校づくり（保護者A評価71.0% 地域A評価78.7%）地域への関心（児童A評価62.0%）

基礎学力向上（保護者A評価43.1%肯定的評価90.1%）

対話的授業改善「聞く」（児童A評価53.5%）「伝える」（児童A評価34.7%）

- ・地域や保護者の学校行事等への参加、参観の機会を作ることができた。今後も、参加、参観の呼びかけや、HPやたよりによる学習活動の周知を継続するとともに、それぞれの学習の意義や目的を丁寧に伝えることで、保護者・地域と連携・協働した教育活動を進めていきたい。情報発信（保護者A評価69.1% 地域A評価72.3%）

生きてはたらく力の育成

～地域とともに仲間とともに野登っ子パワーアップ大作戦～

亀山市立野登小学校

1. 特色ある学校づくり推進の概要

本校では、「地域との関わりや人とのふれあいを通して、思考力・判断力を高め、伝え合う力を身につける」ことを活動のめあてとし、以下の2点を中心に取り組んだ。

- (1) 地域資源（ひと・もの・こと）を活用した「学びの意欲」づくり
 - ・野登の自然や文化、産業に触れる「ふるさと学習」
 - ・地域の文化や特色に触れ、人との交流を通して地域の良さを学ぶ
 - ・学びを発表する場の設定
- (2) 主体的・対話的な「学びの基盤」づくり
 - ・読む・読み取る力、本に慣れ親しむ習慣づくり
 - ・基礎基本の定着
 - ・1人1台端末の活用
 - ・授業力の向上
 - ・「話す・書く」活動

2. 具体的な実践

(1) 地域資源（ひと・もの・こと）を活用した「学びの意欲」づくり

本校では、学校運営協議会を軸とし、地域や保護者と連携を図りながら、野登の自然や文化を学習に積極的に取り入れ、少人数の良さを生かした教育活動を展開している。

1・2年生は、池山公民館で地域の方に教わりながら丸太切りや、どんぐりやまつぼつくりなどの自然素材を使って作品づくりを行うネイチャークラフト体験を行った。初めてのこぎりを使う児童もいたが、地域の方の見守りの中、真剣に取り組み、「自分でできた」という成功体験を積むことができた。野登地区では、地域の方が見守り隊として上下校時の児童の安全を守ってくれている。2学期には1～3年生が、見守り隊の方との交流会を企画し、参加してくださった方の肩を揉んだり、一緒にゲームをしたりして日頃の感謝の気持ちを伝えた。プレゼントには、みつまたの白木で作ったメッセージ入りのキーホルダーを渡した。新型コロナの影響で4年ぶりの開催となり、初めての経験ばかりであったが、試行錯誤をしながら相手意識をもって取り組めたことは、子どもたちの自信にもつながり、貴重な機会となった。4年生は、安楽川の生き物調べを行い、地域の自然の中で様々な生物と共生していることを学ぶとともに、野登の自然環境を守っていくために、自分に何ができるかについて考えた。5年生は、米作り体験を通して、昔の人の米作りに関わる工夫を知るとともに、現在の農業の仕組みについても教わった。

学年	ふるさと学習・活動内容
1年	自然素材で工作（ネイチャークラフト体験）
2年	自然素材で工作、原田屋製菓舗・MAKER'S・穴虫の郷・宗徳寺見学
3年	茶摘み・お茶の入れ方体験、見守り隊の方との交流会
4年	安楽川の生き物調べ、地域の伝統文化（かんこ踊り、いのこ）
5年	米作り（田植え・稲刈り・脱穀・精米）
6年	野登和紙づくり・卒業証書作成、水墨画制作、地域の文化財調べ

6年生は、16年前から継続して行っている「野登和紙づくり」に取り組んだ。この取組を始めた頃は、地域に出かけて和紙づくりを行っていたが、現在は地域の方やPTAの協力のもと、学校ですべての工程を行い、作成している。材料は地域に群生している「みつまた」を使い、より質の良い和紙を作るために毎年地域の方とともに工夫を重ね、改善を加えている。原木の調達やみつまたの皮を煮立てる作業など、子どもたちだけでは難しい作業は、まちづくり協議会の方々をはじめ、みつまたを愛する会、野登ルンビニ園、野登小PTA役員OBの方々の力を借りて行った。昨年度から、PTAの奉仕作業でみつまたが群生する「天空の森」の除草を行ったり、みつまたの枝から皮を剥ぎ取り、和紙に使う本皮を取り出す細かな作業を、6年生の保護者と一緒に行ったりする等、親子で関わり合いながら卒業書証書となる和紙作りに取り組んでいる。



(2) 主体的・対話的な「学びの基盤」づくり

児童の表現力・思考力の向上を目指し、校内研修や図書館活動の充実を図った。

- ①児童が主体的・対話的に課題解決に向かう授業や、論理的に「話す・書く」ことに重点をおいた授業を展開し、道徳科を軸として指導内容や指導方法の工夫について研究を深めた。教師が単元でつけたい力を明確に持ち、深い教材理解の上に、単元計画や授業展開を工夫することで子どもの学習意欲を高め、他者との対話によって学びを深める姿がみられた。
- ②「本に慣れ親しむ活動・読書活動年間計画」により、図書館まつりや読み聞かせ等計画的に取組を進めた。また、学校司書や学校図書館活用アドバイザー、読み聞かせボランティアと連携した指導によって、読書習慣や意欲が身についてきている。

3. 成果と課題

(1) 成果

- ・それぞれの学年で野登の地域資源を活用した学習を行い、子どもたちは地域の産業や文化について新たな発見をするとともに、地域の方とのつながりを深めたり、自分自身を見つめたりすることができた。
- ・野登和紙づくりでは、子どもたちが、自分自身で制作した和紙への愛着や和紙づくりに関わっていただいた方への感謝の気持ちをもって取り組みを進められた。
<地域・保護者アンケート> 「学校は、学校行事などを通して、保護者や地域住民と連携した教育活動に取り組んでいる」（肯定的回答 地域：100% 保護者：91.9%）

(2) 課題

- ・学校からの情報発信を継続するとともに、子どもたちにつけたい資質・能力を保護者や地域の方と共有し、連携・協働しながら取組を進めていく必要がある。
- ・野登和紙づくりでは、学校・保護者・地域がどのように関わり合いながら取組を進められるかを考えるとともに、6年生の貴重な学びの場として、地域に開かれた学校づくり、地域貢献や地域の活性化へつながる継続した取組としていく。

であり、ふれあい、そして 未来へ ～ 自分を発揮し、求め続ける白川っ子の育成 ～

亀山市立白川小学校

1 特色ある学校づくり推進の概要

(1) 本校の現状

① 地域とともに、魅力ある学校づくり

「亀山市立白川小学校運営協議会」「白川地区まちづくり協議会」を中心に、様々な学校行事を共に行っている。保護者の方々は地域の方々と顔馴染みの方が多く「子どもは地域の宝である」という意識がしっかりと根付いている地域である。今年4年ぶりに行った地域と合同の運動会も、企画段階から話し合いを重ね、晴天のもと皆が楽しめるものとなった。

② 縦割り班（なかよし班）による異学年活動で、互いの絆を深める

本校は、今年度3・4年生と5・6年生の2複式で、特任校制度を利用している児童9名を含めた、全校44名の小規模校である。学校行事のほとんどを、この縦割り班で行っている。5・6年生がリーダーシップをとりながら進めていくことで、下の学年の児童の子どもたちの自立性も育っている。

(2) 取組の柱を中心とした概要～体験活動と交流活動

① 豊かな自然を守り、白川の伝統を引き継ぐ体験活動

ア 炭焼き・販売体験（高学年）、そば栽培（中学年）、さつまいも栽培（低学年）

イ 中学年中心のFBC花壇作りや学級園での栽培体験

② 人との出会い・ふれあいから学ぶ～交流福祉活動～

ア つくしの家（指定障害福祉サービス多機能型事業所）の方々との交流

イ 中学年のお年寄り訪問（育てた花の苗プレゼント）における交流

2 具体的な実践例

(1) 体験活動

稻作体験

・4月と9月にそれぞれ行われる「田植え」と「稲刈り」は、地域の方の田んぼをお借りし、地域の方の指導のもとで、全校児童が行う一大イベントでもある。収穫したお米は1月に行われる「もちつき集会」で、地域の方々へのお礼として使われる。保護者の方々の協力も得ながら、今年も盛大に開催された。

さつまいも作り

・「苗植え」は地域の方の畑をお借りして、地域の方にお世話になりながら1・2年生が行う。6月に行った「苗植え」から成長したさつまいもを、今年度は全校で10月に掘り起こすことができた。いもの掘り方のコツを地域の方に教えてもらいながら、大小様々な形のいもを掘ることができた。収穫したいものは、給食で提供されたり、お世話になった地域の方と一緒に焼きいも大会をしたりして、味わうことができた。



そば作り

・地域の方の畑をお借りして3・4年生が行う。8月の「そばの種まき」から始まり、途中「そばの生育の観察」もさせて頂きながら、10月に「そば刈り」を体験することができた。児童は、地域の方の指導のもと、そばの種や花を興味深くじっくりと観察し、「そば刈り」までその様子を見守った。育ったそばは「そば粉」にされ、地域の行事『明星祭』において、婦人会の方々から児童・保護者や地域の方々へ“かけそば”としてふるまわれた。

炭焼き

・学校の敷地にある「炭窯」を使って、地域の方の協力のもと5・6年生が、「炭焼き」を体験した。今年度から「白川の炭」がふるさと納税の返礼品となったこともあり、例年よりも多くの「炭焼き」体験をすることができた。炭焼きに使う檜の木の切りだし作業から、作った炭を販売する起業体験（炭の搬入・搬出、炭のパッケージ作りなど）まで、白川伝統の炭焼き事業にしっかりと携わることができた。実際に、地域のうどん屋さんや、JA、郵便局などに出かけ、ポスターや商品見本を置いて頂くというお願いの活動も、児童自ら行うことで良い体験になったと思う。また、今年度は、3・4年生の学習として「白川の炭焼きの歴史」についても地域の方々にお話しをして頂き、その事前・事後学習においての「調べ学習（ポスター掲示）」は、意欲的なものに仕上がっていった。来年度の良い足掛かりとなる体験活動であった。



（2）交流活動

「お年寄り訪問」、「つくしの家」との交流

・「お年寄り訪問」については、3・4年生が、自分たちで育てた花の苗を民生委員さんや福祉委員さんの協力のもと、一人暮らし・二人暮らしのお年寄り宅へ伺い、手渡すことができた。授業で書いた手紙も一緒に添えて、ひとときであつたが、楽しい時間を過ごすことができた。



・「指定障害福祉サービス多機能型事業所つくしの家」との交流を、今年度は3回行うことができた。児童会を中心に司会・進行を行い、縦割り班でゲームやしおり作りなどをして、お互いの交流を深めることができた。

3 成果と課題

【成果】

- ・地域の方々や保護者の協力のもと、多種多様な活動を体験することができている。
- ・学校評価アンケートの「子どもの創意の引き出し、達成感が味わえる活動」の項目において、地域・保護者の方の評価も高く、様々な人と出会うことの重要性、児童のふるさとへの愛着心を育てることの大切さを改めて感じる。

【課題】

- ・炭焼き体験にかかる、原木の切り出しや炭焼きの準備をして頂く地域の方の後継者をどのように募っていくか。



つながろう 笑顔いっぱい やなぎっ子 鶴山市立神辺小学校

1 特色ある学校づくり推進の概要

- (1) 総合的な学習の教材を地域にもとめ、地域の中に見出した学習課題を解決する活動を行う。その際、地域の特色に関するゲストティチャーを招聘したり、地域に調査に出かけたりし、体験的で創造的な活動を積極的に展開する。また、地域の方々と交流や親睦を深めながら、地域に開かれた教育実践を行う。
- (2) 人権意識の向上を研修テーマとし、体験的な学習を取り入れた実感のある授業づくりに取り組む。先進的な実践に学ぶとともに、子どもたちの実態に応じた授業を構築する。
- (3) 習熟度別学習等、算数科の指導形態を機動的に工夫し、個に応じた指導を充実させる。主体的、対話的で深い学びになるよう、ペア学習やグループ学習・全体での話し合い活動を大切にした学習を行う。

2 具体的な実践例

(1) 地域人材・教材を活用した体験的な学習

神辺小学校にある地域教材・地域人材を積極的に生かし、体験的な学習を実施した。低学年では、生活科で町たんけんに出かけ、1年生は地域の自然に触れあい、2年生は地域の施設や歴史等を学ぶことができた。また、栽培活動（委員会活動等）では、地域の方々と共に活動を行い、これらの活動を通して、地域の人々や環境を大切にする心情が育まれてきた。また、学習ボランティアとして、多くの地域の方々に国語科や算数科、家庭科、図画工作科等の学習で支援していただき、児童の学習意欲の向上、基礎学力の定着を図ることができた。



〈1年生 生き物見つけ〉



〈2年生 校区たんけん〉



〈栽培活動〉

(2) 人権をテーマにした実感のある授業づくり

各学年でテーマを設定し、人権意識を育む授業づくりに取り組んだ。人権学習は、自分に気づく学習、未来を創るための学習であることを全教職員で共通理解し、人との出会いや体験的な学習を積極的に取り入れていくようにした。全校人権集会では、たてわり班で集まり子どもたち一人一人が自己宣言を行なった。自己宣言の内容は、これまでの学習内容や普段の生活を振り返りながらどんな自分になりたいかを考えた。



〈4年生 出会い学習〉



〈全校人権集会〉

《各学年のテーマ》

- 1年 自分を見つめる
- 2文化にふれる
- 3男女共同参画
- 4障がい者理解
- 5平和学習、ハンセン病
- 6歴史学習から

(3) チームティーチングを中心に効果的な算数指導を改善

算数科の授業では、3・4・5・6年生で複数教員による指導を実践している。チームティーチングの授業を行うことによって、多角的・多面的に児童理解を行うことができ、個に応じた多様な指導・学習形態をとることができた。また、集団の学習の中で児童へのきめ細かな支援を行うことができた。

3 成果と課題

(1) 成果

①地域教材の学習などを通して、地域住民と児童との交流が深まった。また、地域や外部の人材を積極的に取り入れた活動により、児童の視野が広がっている。

- ・「学校は地域の人材を取り入れようとしている」

地域・学校関係者アンケートで肯定的な回答、地域 82% 保護者 95%

②人権教育において、各学年の実態応じた学習に取り組むことができた。

- ・人権問題等に係わる学習の実施時間 年間 85 時間（全学年）

③少人数指導によって、子どもたちの算数科に関して理解が深まっている。

- ・「チームティーチングの算数の授業はわかる」 肯定的な回答 95%

(2) 今後の課題

- ・地域や外部の人材を積極的に取り入れた活動は、社会とつながり、自ら学び、自ら考える生きる力の育成につながる。今後も地域と連携しながら、積極的に取組をすすめていきたい。
- ・今年度から研究主題を人権教育に重点をおいて取組んでいる。今後も人権カリキュラムに示されている人権課題について、各学年が各教科と関連性を持たせながらテーマ学習を進めることで、人権課題の解決に向けた知識と態度を養っていきたい。
- ・チームティーチングに対して、肯定的な回答する児童が大多数を占めている。次年度においても児童へのきめ細かな支援を継続して行っていきたい。

笑顔いっぱい！進んでチャレンジする井田川っ子の育成 亀山市立井田川小学校

1 特色ある学校づくり推進の概要

(1) 学校運営に関する取組

- ・学校経営ビジョン、学校予算、学力向上推進計画、研修デザイン、いじめ防止基本方針、特色ある学校づくり事業計画及び予算の承認。
- ・コミュニティ・スクール推進構想、学校運営協議会年間計画について、今年度の方向性を意見交換と熟議。
- ・コロナ後の学校行事をどのように実施していくのか、コロナ前に戻すのか、精選するのか、PTAとも連携しながら検討し開催した。
- ・おもな学校行事・PTA行事等について行事終了後、間を開けずに協議会を開催し、意見交換や児童の様子について熟議を行った。
- ・教育活動アンケート（児童・保護者）の結果を吟味し、各活動に意見をいただいた。

(2) 学校支援に関する取組

- ・学校ボランティアを募集し、ボランティア組織「井田っ子応援団」のさらなる充実に取り組んだ。
- ・「読み聞かせ」「英語」「登下校見守り」について、感染状況に対応しながら、臨機応変な活動を支援した。
- ・昨年度同様、1・3・5年、2・4・6年と、午前・午後と分けての運動会を開催することとし、学校運営協議会の委員も参観し、すぐ後の学校運営協議会で、子どもの様子や運営について助言を得ることができた。
- ・今年も教職員の過重労働の実態について、昨年同様、意見交換の機会を得て、改善の方向と現状について話し合うことができた。

2 具体的な実践例

- ・3年生の総合的な学習の中で、ユニバーサルデザインについて、「UD夢ネット亀山」の方に来ていただいて、お話を聞いて質問をしたり、アイマスク等で目の不自由な方の疑似体験をしたりした。また、車イスバスケットやフライングディスクなどのパラスポーツ体験も行った。

3年生 ユニバーサルデザイン学習
UD夢ネット亀山の方と交流



- ・4年生は、総合的な学習で、起震車で、地震体験した。また亀山防災ネットワークの方に来ていただいて、タウンウォッチングを行い、防災マップを作り地域に関連して身近な防災学習を深めることができた。



3年生 ユニバーサルデザイン学習
パラスポーツ体験

- ・毎年協力をお願いしている地元のボランティア団体「どんこネット川合」による5年生の総合的な学習において「米作り」を実施し、田植えや稻刈りも体験することができた。
- ・「井田っ子応援団」での「英語」「読み聞かせ」「登下校見守り」の活動はコロナ禍前のように活動することができた。
- ・「なるほどタイム」として教員が学習補充をしたり、地域の先生による学習支援講座を実施したりし、個別指導による学習の定着や意欲向上に取り組んだ。



3 成果と課題

(1) 成果

- ・今年も、運動会やオープンデーにおいて、協議会委員が学校の様子を参観し、具体的な児童の姿とともに意見交流を深めることができた。
- ・地域の人材の情報を活用することで、総合的な学習の時間で、地域体験活動を設定しやすくなり活動が増えた。放課後子ども教室や井田っ子応援団（学校ボランティア）などと連携し、回数も増え、充実した。また、読み聞かせボランティアは、少し増えた。
- ・学力定着のための補習や意欲や追求、見通しを持った授業づくりにより、意欲向上につながった。「学習内容がわかる」（令和4年度肯定的評価 89.1%）「学校生活が楽しい」（令和5年度肯定的評価 89.3%）
- ・地域とつながり体験的な学習ができるだけ取り入れることにより、学習意欲が高まり、学びが広がり深まった。

「地域の人に学校に来てもらって行う学習は楽しくためになる」（令和5年度肯定的評価 95.3%）

(2) 課題

- ・将来の学校・地域像を熟議し、地域とともに目指すビジョンの共有。
- ・井田っ子応援団（学校ボランティア）の拡充と生活科・総合的な学習を軸としたカリキュラムへの有効なコーディネート。
- ・井田川小校区の地域学習人材バンクを設置し、要請に応じて活動する仕組みをつくり、「井田っ子応援団」への参加を目指す。
- ・子どもも、家庭支援ネットワークの充実と人権啓発の推進により、多様性を尊重し、共生の視点での学校・地域づくりに取り組む。
- ・井田川小を核とした地域課題の改善と学校教育活動の充実をともに進めることができる取組を模索し、推進する。
- ・教職員の働き方改革につなげる視点での環境整備、行事や活動の精選を進める。



みどりの中で豊かに学ぶ「みなみっこ」の育成

亀山市立亀山南小学校

1 特色ある学校づくり推進の概要

- (1) 学校行事等の学校運営に地域の教育資源を積極的に活用し、地域に根ざした教育活動を行う。
- (2) 子どもの可能性を高める体験活動を通して自他を思いやる心や主体的・自立的な態度を育てる。
- (3) 芝生運動場、学校花壇の整備充実を図り、その中で取り組む勤労生産活動や体力向上活動から、豊かな心と健やかな体の育成を図る。
- (4) 家庭での学習や生活習慣、人間関係などについて質問紙調査等から現状把握、分析を行い、その改善に向けた取り組みを推進する。

2 具体的な実践

(1) 地域の教育資源の活用と地域に根ざした教育活動

地域主体の行事である「地域ふれあい集会」は、亀山中学校吹奏楽部の演奏や図書ボランティアの「おはなし隊」による読み聞かせ、地域の方を講師としてお招きしてのふれあい活動など、学校運営協議会運営委員を中心に行った。今年度から新型コロナによる参観の制限をなくし、保護者や地域の方に広く参観いただきながら協力を得て、実施することができた。



(2) 子どもの可能性を高める体験活動・自他を思いやる心

活動テーマにある「みどり」は、本校の大きな特色である芝生運動場と花壇がシンボルである。芝生の維持管理は課題となるが、年間を通じて子どものケガは少なく、児童の健康増進と体力向上に繋がっている。

校内花壇や学級園活動、自然に触れる体験活動等について、地域のボランティアの皆さんの協力を得て、整美栽培委員会を中心としながら全校で取り組み、今年度も花壇の花が立派に咲き誇った。また、6年生が里山学習で保全活動を行ったり、各学年の学級園活動では、自分



たちが育てた植物が実を結ぶところを見たりした。花壇や学級園での活動などの成果が形となり、子どもたちの豊かな心の育成に大きな力となっており、地域の方の協力で支えていただいているという実感が持てている。

みなみ保育園との交流では、5年生が学んだプログラミングでロボットと一緒に動かし、交流した。新入学予定の児童と1年生との交流では、様々なゲームを企画し、楽しんでもらった。他にも、5年生の保育体験でみなみ保育園を訪問したり、みなみ保育園の「散歩」や「凧あげ」「運動会練習見学」などで小学校を訪れていただいたりした。学校内では、縦割り班活動を増やしたり、職員同士の情報交換を活発にしたりし、「途切れのない学び」を意識した取り組みを行った。縦割り班活動や集会等の全校行事では、高学年が中心となって運営し、自他を思う気持ちを発達段階に応じて考えるとともに、主体的・自立的な態度を養った。



3 成果と課題

【成果】

- ・花壇活動 地域ボランティアの協力を得ながら、花壇や学年花壇での栽培を行った。
- ・里山での自然保全活動、地域ふれあい集会、苗植え集会、クリーン集会、町たんけん、「おはなし隊」による読み聞かせ等、地域の教育資源を活かした活動 ・QU調査(年2回)の実施
- ・学習ボランティアの協力による放課後の補充学習等の学習活動 計画時の成果指標を概ね達成した。
- ・体力面や学習面では課題を残すが、全校でのなわとび集会や学級遊びの実施により、休み時間に運動する姿が多く見られるようになった。また、「学校生活が楽しい」や「授業や活動で自分の考えを言うことができる」のアンケート回答で児童の肯定的評価がそれぞれ10P、25P上昇しており、前向きに活動に取り組めている様子がうかがえる。

【課題】

- ・学校評価アンケートでは、「読書」「あいさつ」に関する項目の肯定的評価が低い。読書に関しては、「読書の楽しみ」が感じられる取り組みの推進が必要である。また、あいさつに関しては、あらためた場面でできなくなる傾向があるので、その重要性にふれながら、取り組んでいきたい。
- ・子どもたちの主体的・自立的な活動をさらに広げられるような活動の推進。
- ・芝生運動場が最大限に活かせるような運動場の管理体制（予算取りも含む）の確立。
- ・家庭での学習や生活習慣、人間関係などについての現状把握・分析を活かした取組の推進。

じぶんで なかまと ふるさとから 学ぶ 夢豊かに しあわせに ～地域の「ひと・もの・こと」にふれ、みんなでわかる、 自ら取り組む子の育成～

亀山市立関小学校

1 特色ある学校づくり推進の概要

今年度は、地域の教育資源を生かした学習活動の推進を継続させつつ、「ととのえる」をキーワードにして、生活力の向上を図るとともに、中学校区の協働による人権教育の推進を大切にして活動した。

「地域の教育資源を生かした学習活動の推進」

- * 関宿から学ぶ「ふるさと学習」
- * 認・小・中が綿密に連携した活動

「『ととのえる』活動を軸にした生活力の向上」

- * ~あいさつ・整理整頓・言葉遣い~

「中学校区の協働による人権教育の推進」

- * 権利の主体者としての意識の育成
- * 協働的な学習活動の創出
- * 教職員研修等の活性化及び指導力向上

2 具体的な実践例

(1) 「地域の教育資源を生かした学習活動の推進」

今年度、5月に新型コロナウイルス感染症の扱いが5類に移行した。今までできなかつた活動も再開させることが可能になったが、単純にコロナ禍前の状態に戻すのではなく、あらためて活動の目的や内容、ありかたを問い合わせながら進めてきた。



写真は一例であるが、複数の学年が関宿の施設や店舗でインタビューや調べ学習等に取り組んだほか、関支所の見学やお囃子体験など、発達段階に応じて、地域ならではの学習に取り組むことができた。

また、例年「いきいきッズ応援団 SEKI」の方々のお力を借りて、5年生は「米づくり体験」をおこなっている。米づくりの学習は、農業体験というだけではなく、植物の成長と収穫の喜びを味わうとともに、教科学習の一環として、命の尊さ、生命尊重についても学習をしている。異世代間交流という意味でも重要な活動と位置付けている。

このような地域の方々と学習や協働作業を行うことは今後も継続し、将来、地域を担い貢献できる子どもを育成したい



(2) 「『ととのえる』活動を軸にした生活力の向上」

昨年度までの「そろえる」というキーワードを「ととのえる」に変え、一律同じものを目指すのではなく、それぞれに応じた形で「ととのえる」ことに取り組んだ。

例えば、きまり・ルールに関しては、何のためのきまりなのか、ルールやマナーがなぜあるのかを日常的に意図的に捉えて進めた。児童会の活動においても、自発的に「あいさつ・ルール・マナー」について考える場面があった。これらは、自分も周りの人たちも大切にすることにつながる重要な活動であると捉えている。

(3) 「中学校区の協働による人権教育の推進」

今年度、人権教育アライメント事業を受け、関中・加太小とともに研修等を重ねた。また、全教職員が亀山高校に出向き、授業を参観したり事後検討会に参加したりできた。

3 成果と今後の課題

(1) 「地域の教育資源を生かした学習活動の推進」

【成果】

学校評価アンケート結果の中で、「地域学習の意義」の項について、児童は 91.3%、保護者は 94.8% の肯定的意見があり、ともに高値を示している。

次年度については、「関宿かるた」の活用も視野に入れ、更なる取り組みを進めたい。

【課題】

地域の豊富な人材に関して、教職員の側が好意に甘えることなく、適切に依頼や打ち合わせを進めることを、今一度見直していきたい。

(2) 「『ととのえる』活動を軸にした生活力の向上」

【成果】

学校評価アンケート結果の中で「ルールやマナー」についての項は、児童の肯定的評価が 90.4%、保護者が 90.3% を示しており、どちらも昨年度から伸びている。

【課題】

学校評価アンケートの「あいさつ」についての項は、児童の肯定的評価が 96.2% と伸びているにも関わらず、保護者の肯定的評価は 78.4% と下降している。

また、「そうじ・整頓」に関する項目についても、肯定的評価は、児童 89.5%、保護者 78.4% に留まる。施設や設備の改善要望を含め、検討を要する。

(3) 「中学校区の協働による人権教育の推進」

【成果】

職員の人権に関する指導力向上という意味でも、学校間の協働という意味でも成果は多く、亀山高校との連携を組めたことは非常に大きい成果である。

【課題】

学校評価アンケートの「いじめのない学校」についての項は、児童の肯定的評価が 96.1% と伸びているが、保護者の肯定的評価は 77.6% に留まっている。いじめをなくす取り組みについて、積極的な情報発信が必要と考える。

今年度の取り組みを踏まえたうえで、具体的な改善策を練り、実践に移したい。ただし、学校評価アンケートについては、質問項目や実施方法など、再考を要する部分がある。

「加太を大切に思う子の育成」 ～子どもたちが生き生きと活動するために～

亀山市立加太小学校

1 特色ある学校づくり推進事業の概要

～小規模学校という特性や加太地区の特性を生かした3つの重点項目～

- (1) 地域のよさに気づき、地域を大切に思う心（郷土愛）の育成
- (2) 地域活力との協働
- (3) 生活習慣・学力の定着及び向上

2 具体的な実践（【】はアンケート結果、☆は目標達成）

- （1）地域のよさに気づき、地域を大切に思う心（郷土愛）の育成

①ふるさと学習の推進

○地域教材（ひと・もの・こと）の開発

「鹿伏兎城」地域史跡学習や加太小の昔の様子調べ等。「かんこ踊り」、「町探検」など（低中高学年で年間2教材実施☆）

○児童集会・授業参観での学習内容発信

児童による「ふるさと学習」発表。



《自然薯づくり》

【ふるさと学習：肯定的回答 児童 90%☆, 保護者 95%☆, 地域 92%☆】

- （2）地域活力との協働

①地域体験生産活動と食育活動の推進

○1・2年さつまいも作り⇒「スイートポテトづくり」、4年梅栽培⇒「梅ジュース」、5年（全校）もち米作り⇒「全校もちつき大会」、6年自然薯作り、「うどん作り」

【地域体験生産学習：肯定的回答 児童 90%☆, 保護者 94%, 地域 93%☆】



《梅収穫体験》



《田植え体験》



《稲刈り体験》

○お世話になった地域の方々へお礼の会を行う。

日常の学習（ふるさと学習）の成果を全校児童や保護者、地域の方の前で発表することにより、自己表現力、学級の集団性を高めた。

また、学習や見守り活動など日頃お世話になった地域の方を招待する会を開いたり、お家を訪問したりして感謝の気持ちを伝えた。



《感謝を伝える児童》

12月には、お世話になった方々を招待し、収穫の喜びと収穫までの指導に対し、感謝の気持ちを伝える全校もちつき体験を開催した。

②地域への情報発信

- 学校だよりや行事案内回覧、つむぎ通信全戸配布（校長室より）、ホームページの随時更新による発信等。【学校は、家庭との連絡を密にしている：肯定的評価 保護者 84%】



《もちつき体験》

③学習ボランティアの活用

- 地域教材（米、梅、自然薯、さつまいもの他、花いっぱい活動など。）【年間のべ 30名☆】

（3）生活習慣・学力の定着及び向上

①効果的な複式指導の在り方及び授業改善について

- 自ら伝え、自らかかわる加太っ子の育成～豊かな対話をめざして～ 算数科授業研究

関中学校区教育研究発表会を10月18日に公開し、校区内外の先生を招き、研究協議を行い、授業力向上を図った。

【授業がわかる：肯定的回答 児童 97%，保護者 84%】

②生活習慣の向上・家庭読書の啓発

- 朝の読書タイムの設定。年間目標読書量を設定した意欲付けの取組。

【本を進んで読もうとしている：児童肯定的回答 77%】

- メディアコントロール週間チェックシートの活用

3回、保健だよりでの結果の報告及び啓発。

③たてわり班活動の充実と仲間づくりについて

- 学級レポートの交流と外遊びの推奨

【学校は楽しい：肯定的回答 児童 84%，保護者 84%】



《花いっぱい活動》

3 成果と今後の課題

<成果>

- ・少人数の良さを生かし、ふるさと学習や生産活動を通じて、保護者・地域住民の協力を得ながら、充実した特色ある教育活動を行うことができた。
- ・地域の歴史や文化を学ぶ中で新たな発見ができ、地域への関心が高まった。また、学びを通して地域の方とのつながりが強まった。【ふるさと学習は有意義：肯定的回答 児童 90%☆、保護者 95%☆、地域 92%☆】



《昼休み・外遊び》

<課題>

- ・「社会に開かれた教育課程」を実現するために、教科等横断的な視点で、計画の見直しを加え、児童の主体的な学びと協働的な学びをさらに促進する。そのためにも、児童にどんな力を育むとよいか目標を学校・保護者・地域で共有し、それぞれの視点で取り組みを進める。
- ・豊かな学びの存続と、地域の核として学校が存在する事で地域が活性化する。今後、地域と連携・協働を図りながら学校支援・地域支援を行っていく。



《運動会・縦割り班活動》

地域を支え時代を担うたくましい人づくり ～地域とともに生徒が育つ学校をめざして～ 亀山市立亀山中学校



1 特色ある学校づくり推進の概要

- (1) 生徒会の自治活動の活性化として、学年や学校行事の企画・運営、姉妹校との交流、あいさつ運動等の委員会活動の充実に取り組む。
- (2) 学校の課題やめざす生徒像を地域や保護者と共有し、地域とつながり続ける体制づくりを推進する。
- (3) 「主体的・協働的な生徒の育成～思考ツールを活用した授業づくりを通して～」を研究主題とし、思考ツールを活用した学習活動の工夫、学習習慣の育成、家庭学習の定着、朝読書や図書館の利用など、確かな学力の向上に努める。
- (4) 人権、平和、福祉、いのち（性・安全）に関する学習を行い、仲間を大切にする思いやりにあふれた心の育成に努める。
- (5) 地域行事への参加、環境美化活動、福祉施設との体験交流、ボランティア活動に積極的に取り組み、地域と学校の連携を図る。

2 具体的な実践

(1) 生徒会の自治活動の活性化

「Let's make 亀中 Happy !～星よりも輝く笑顔～」を今年度の生徒会目標に掲げ、生徒が主体となった活動に取り組んだ。

生徒会では、あいさつ運動やピンクシャツ運動に取り組んだ。生徒集会では、姉妹校交流の還流報告などを発信した。また、体育祭・文化祭では、5類移行後の新たな状況下で、生徒が中心となり、新たな形の全校開催に向け取り組んだ。

① 姉妹校交流

平成10年より岡山県高梁市立高梁中学校と行っている姉妹校交流として、8月に高梁中を訪問した。ようやく対面開催となり、お互いの生徒会活動や行事の紹介、高梁市街地散策とその交流会を行い、両校の結びつきを深めることができた。

② 亀山中ピンクシャツ運動

生活委員会を中心に「ピンクシャツ運動」を行った。各学年で「いじめをなくすために、自分ができること」を一人ひとりが考え、クラスごとに掲示した。



(2) 学校運営協議会による取り組みと、保護者・地域への情報発信

学校運営協議会の方々に生徒たちの学習や行事を観ていただきたり、生徒会役員との意見交換を行ったりしたことにより、生徒の実態をもとに学校運営協議会として取り組むべきことについて議論を深められた。和菓子職人でもある伊藤正博会長による、不登校や別室登校の生徒を対象にした和菓子作り体験を計画し1月に実施した。生徒たちは一緒に和菓子作りをすることで、日本文化の魅力を体験し、仲間と一緒に活動する楽しさを味わうことができた。



地域の学生ボランティアを活用し、学校生活において生徒の支援を行った。

教育懇談会ではシンガーソングライターのあつさんをお招きし、保護者と生徒へ『自分らしさやまわりを大切にし、自分なりのアイデアとそれを実際の活動に繋げることの大切さ』を伝えていただいた。

学校だより・学年だより・学校ホームページ等で保護者・地域への発信もタイマーに行い、委員からも保護者からも高評価であった。

(3) キャリア教育の取組

3年生の保育体験では、校区の幼保育園へ手製のおもちゃを持って訪問、児童との交流・保育体験を行った。2年生の職場体験学習をコロナ禍後で初めて実施することができた。生徒は、実際の仕事を間近に見て体験することにより、働くことの意義や喜びを感じ、進路や将来について考えることができた。また、職場体験学習を行えなかった3年生を対象に、県技能士会の協力のもと、ものづくりを通しての職業体験を実施し、生徒の職業観を高めることができた。

(4) 豊かな心の育成と絆づくり

人権サークルが中心となり全校人権フォーラムで「言葉」をテーマに話し合い意見を交流した。生徒たちは『言葉には大きな力があり、少し意識をするだけで、使う言葉が変わる』ことを確認し、人権意識を高める取り組みになった。

亀山中学校「いのちの日」の取り組みの一つとして、1/26には交通事故被害者遺族の鷲見三重子さんから命の大切さや生きることの素晴らしさについて「明日を生きる君へ～伝えたい 生きること 生きぬく事～」というテーマでお話を聴き、改めて自分の大切さ、命の大切さについて全校で考える良い機会となった。

3 成果と課題

この数年間で学校行事について見直し、生徒が主体な活動の在り方を模索しつつ、新たな形で実施できたことが成果である。さらに地域教育資源を活用した教育活動を積極的にすすめ、子どものがんばりを積極的に発信し、自己有用感をもって主体的に行動できる生徒を育成する必要がある。そのためにも、学校だよりやホームページを活用し保護者や地域への発信をしながら、さらに連携を強化していく必要がある。

「学校・保護者・地域が一体となり豊かな心を育む人づくり」

亀山市立中部中学校

1 特色ある学校づくり推進の概要

“人は環境（学校・地域）の中で育ち経験を通して生きていく”ことを基本に、「豊かな心を育む人づくり」を活動のテーマとして取り組みを展開している。また、昨年度から、従来の学校運営協議会の活動に加え、学校ボランティアの募集を開始。学校・家庭・地域が一体となり連携・協力して、それぞれの教育力の向上を図っている。

取り組みの視点

- ①学校運営協議会の地域連携・学校支援・環境安全の各部会と連携して、学校・保護者・地域が一体となって活動に取り組む体制づくりを推進する。
- ②学校行事や、地域行事を通して地域との連携を強化するとともに、地域の活動に生徒を積極的に参加させる。
- ③命の大切さの学習など人権教育を中心とした今日的な課題を位置づけた講演会等を「いのちの授業」として開催し、生徒の人権意識の向上を図るとともに、人づくりの啓発を行う。
- ④生徒会組織を中心として、環境整備に努め感性を育てるとともに、生徒自身が主体的に活動に参加することで、生徒の自治能力向上に努める。

2 具体的な実践例

視点①について

今年度も学校ボランティアのメンバーを中心に、通学路の見守りや、敷地内に多く残る木々を伐採いただいた。環境整備に関しては、昨年以上に来校いただき、時には有志20名ほどが作業に参加された。度重なる地域のご厚意に感謝の念が絶えない。



【井田川北コミュニティ、みずきが丘青壮年部の皆さん】 【ネットの蔓や切り株も取り除いてもらった】

また、現在の学校が抱える課題を共に考える機会として、校区の保護司や児童委員と意見を交換する「サポート会」や、生徒の率直な意見を聞く「CS委員と生徒会役員との懇談会」を行った。サポート会では、別室登校の生徒が過ごしている部屋の環境や、SNSの使い方などが話題に上がった。生徒会役員との懇談会では、生徒達から学校生活で気になることや、校内外における行事の捉え方について、様々な考えを聞くことができた。3度目の開催だが、本来の趣旨に近い自由な雰囲気で話せたことがよかったです。どちらの集まりも、本校CSにとって広い視野で現状を見るための重要な柱であり、今後もぜひ続けていきたい。

視点②について



【観覧席も賑わった体育祭】

学校行事や地域行事が活発になった今年度、多くの地域住民にご来校いただいた。「体育祭」では、環境ボランティアによるグラウンド周辺整備のおかげで、法面からの観覧が可能となった。「体育祭」「文化祭」共に人数制限を設けずに来てもらうことができたので、引き続き学校公開デーとして、より良い形で子どもの頑張りを応援いただきたい。

一方、昨年からの声かけにより、中学生が地域に出ていく機会も多く、「みずきが丘秋祭り」「みどり町文化祭」「井田川北コミュニティ炊き出し訓練」等、各地で演奏発表やスタッフとして参加する姿が見られた。「川崎ふれあいフェスタ」では、初めて中学生主体のブースを任せられ、美術部が即興イラストで子ども達のリクエストに応えて、好評を博した。加えて2年生の職場体験では、新たな受入先の小学校などを含む多くの事業所にお世話になった。次年度も幅広く協力していただけるよう進めたい。

視点③④について

人権教育に関する取組として、人権サークル「スマイルクローバー」を中心に、市内3中の交流会や、校区人権フォーラム、また校内人権フォーラムに参加・運営を行った。それぞれ他校生徒や小学生、地域住民の方々と意見交換を進め、学びの成果を全校に還流し、理解を深めた。

また、人権と環境整備に関する取組として、今年も造園技師の指導の下、生徒による中庭花壇の苗植えと水やりを行った。同じ花を植えたプランターを、校区内まち協に届ける活動も継続した。



【ひまわり、ビオラなど】



【コミュニティセンターの入り口】

3 成果と今後の課題

【成果】

- ・学校評価アンケートの結果では、「仲間づくりの学習に取り組めたか」「校内美化に取り組んでいるか」の両項目で、肯定的意見が目標の70%を大きく上回り、視点③④の取組へ評価が得られた。(仲間づくり…生徒89.9%・保護者81.5%、校内美化…生徒86.8%、保護者81.0%)

【課題】

- ・「学校の様子を積極的に知らせているか」の項目について、昨年度から大幅に改善したが、1・2年生保護者の評価は、目標にあと一歩及ばなかった。(生徒86.5%、保護者69.3%)こと中学校に慣れるまでの期間は、学級通信などによる分かりやすい発信を推進したい。
- ・「積極的に地域行事に参加しているか」の評価が目標に届かず、保護者への周知、保護者と地域との連携について改善の必要性が見られた。(生徒68.6%、保護者60.1%)参加時の生き生きとした様子が伝わるよう、取組を続けたい。

幸せ関中学校計画

～子どもたちの夢を叶えるために～

亀山市立関中学校学校

1 特色ある学校づくり推進の概要

(1) 地域との交流の強化

生徒が地域に出て行き、ふれあいの場を作る。それをもとに、地域の方々が気軽に来校できる雰囲気を作る。

(2) 生徒ひとりひとりの実情に応じたサポート

保護者は勿論、周りの大人がアンテナを張り巡らせ、諸機関と連携しながらより良い学校運営に当たる。

(3) 教育から導育への提案

教えて育てる子どもが受け身の「教育」から、「これをやってみたい、あれをやってみたい」という気持ちで子どもの心を導き育てる「導育」を展開する。

2 具体的な実践例

(1) 地域との交流の強化

①関中人権フォーラムでは、「いじめをなくすために、自分にできること」について全校生徒が意見交換を行った。校区人権フォーラムでは、校区内の小学6年生全員と亀山高校の人権サークルのメンバーが集まり、身近な差別問題について考える機会をもった。三中学校交流会では各校の代表者が集まり本校を会場とし、人権について交流を行った。



三中学交流会

②学びの基盤づくりとしての出会い学習の実施

[1年生] …三重県の人権学習との出会い（三重県人権センター）

[2年生] …職場体験学習（市内の各事業所でのキャリア教育）

[3年生] …修学旅行（沖縄の自然と文化を学ぶ体験学習）



1年生 人権センター



2年生 職場体験学習



3年生 修学旅行

- ③関認定こども園アスレの園児たちが本校体育館に来館し、3年生が家庭科の保育実習として園児たちと交流した。グループごとに園児とふれあい、楽しく過ごした。



(2) 生徒ひとりひとりの実情に応じたサポート

- ①キャリア教育への支援として2年生の職場体験学習を行った。

生徒は、様々な職業の働く人に密着して、実際の仕事を間近で見て体験することにより、働くことの意義や喜びを感じ、進路や将来について考えることができた。

- ②学生ボランティアの活用

地元出身の大学生のボランティアが授業や日常生活において、生徒の支援を行った。

(3) 教育から導育への提案

CSのテーマ「しあわせ関中計画」を目指し、「差別をなくすために私たちができること」「誰もが幸せに暮らせる社会を作るために」と題した人権学習を開催した。

(4) 広報による情報発信事業

定期的な通信の発行と学校ホームページの活用により、各種行事の場面等での本校における様々な取組を、保護者や地域に向けて発信した。また、冊子「やる気スイッチのありか」を学校運営協議会の考える子育てのヒントとして来年度入学する生徒の保護者に配付した。

3 成果と課題

【成果】

- ① 関中学校ホームページの更新や効果的な編集を行い、保護者や地域の方が「見たいな」とか「必要だな」と思えるものになるよう工夫した。学校の取組みや学校運営協議会の取組みが広く伝わった。
《通信や懇談会等で様子が分かる 保護者 91%》
- ② 学年ごとに実施した様々な「出会い学習」や人権フォーラムを通して、自分の身の周りにある人権課題に気づき、考えようとする生徒の姿が見られた。

《人権学習の機会の充実に関する肯定的評価 生徒 96%》

- ③ 職場体験学習を実施し、事前にマナー講座も行われ、しっかりと取り組むことができた。
《進路学習の機会の充実に関する肯定的評価 保護者 88%》

- ④ CSのテーマ「しあわせ関中計画」を目指して、お二人の講師の方を招き、一人ひとりの生徒が人権学習をより深く学習することができた。

【課題】

- ①学校評価アンケート等から家庭学習の定着化・習慣化に課題があることが明らかになつた。今後家庭・地域と連携し、全校体制による補充学習の充実を図る必要がある。
- ②地域教育資源を活用した教育活動を積極的にすすめ、子どものがんばりを積極的に発信し、自己肯定感をもって主体的に実践行動できる生徒を育成する必要がある。
- ③将来の夢や目標を持つことができず、進路を決めきれずに悩む生徒がいた。教育相談を充実させ、家庭ともさらに連携をとり、生徒の進路実現に努める必要がある。

